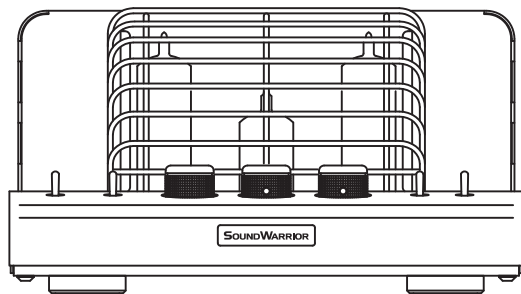


SOUNDWARRIOR

SWL-T20U

USB DAC 内蔵
真空管プリメインアンプ



日本製

取扱説明書

目次

| | | |
|---------|--|----|
| 安全上のご注意 | | 2 |
| ご使用前に | | 4 |
| 接続例 | | 5 |
| 各部の名前 | フロント | 6 |
| | リア | |
| 接続のしかた | スピーカーの接続 (Speaker 端子) サブウーファースの接続 (Sub Out 端子) ヘッドホンの接続 (Phones 端子) パソコン、スマートフォンの接続 (USB 端子) オーディオ機器の接続 (LINE 端子) オーディオ機器の接続 (Aux in 端子) レコードプレーヤーの接続 (Phono 端子) 電源コードの接続 | 8 |
| 基本操作 | 基本操作、トーンコントロール操作 | 12 |
| 再生のしかた | オーディオ機器で再生 (LINE 端子) レコードプレーヤーで再生 (Phono 端子) ポータブルオーディオプレーヤーで再生 (Aux in 端子) Mac で再生 (USB 端子) Windows で再生 (USB 端子) | 14 |
| お困りの時は | | 18 |
| 保証規定 | 保証規定、アフターサービス | 19 |
| 主な仕様 | | 20 |

安全上のご注意

安全上の表示説明

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。



警告

誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性があるもの。



注意

誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。



注意

注意すること



禁止

してはいけないこと



指示

必ず行うこと



警告



電源プラグを
コンセントから抜く

異常が発生したらすぐに電源プラグをコンセントから抜く

- ・ 煙やにおい、異音がするとき
- ・ 機器に水がかかったとき
- ・ 落としたり破損したりしたとき

直ちに使用を中止し、販売店へ修理を依頼してください。



感電注意

屋外や風呂場等での使用は絶対にお止め下さい

内部に異物や水が入りますと感電・故障・火災等の原因となりますのでお止め下さい。

もし異物や水が入り込んだ場合はすぐに電源を切り、販売店若しくは当社にお問合せ下さい。



分解禁止

カバーやパネルを外さない

改造しない

火災・感電の原因となります。



禁止

電源プラグは確実に差し込み、定期的に清掃して下さい

ほこりが溜まると配線がショートし、感電・故障・発熱発火による火災の原因となります。



感電注意

本体の通風孔をふさいだり異物を入れなで下さい

内部には電気部品が並んでいます。ふさいだり異物が入ると火災や感電の恐れがありますので、ご注意ください。特にお子様のいるご家庭では細心のご注意をお願いします。万一内部に異物が入った場合や、ほこり等が溜まった場合はすぐに電源を切り、販売店若しくは当社にお問い合わせ下さい。



高温注意

雷が鳴りましたら、早めに電源スイッチをお切りになり、電源プラグをぬいてください。感電の原因となります。

強い磁気等の近くはなるべくお避け下さい。影響を受け故障の原因となります。高温、高温となる場所でのご使用はお避けください。影響を受け故障の原因となります。

警告



禁止

正しい電源電圧でご使用下さい
表示された電源電圧以外でのご使用は絶対にお止め下さい。
特に海外でのご使用は出来ません。感電・故障・火災等の原因となります。

注意



ぬれた手で触れない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。



禁止

電源プラグを抜くときはコードを引っ張らない
コードが損傷し、火災・感電の原因になります。

不安定な場所に設置しない
落下によるけがの原因となります。

湿気やほこりが多い場所に設置しない
調理台や加湿器のそば、油煙や湯気が当たった場所などに設置しない
火災・感電の原因になることがあります。

長期間使用しないときは電気プラグをコンセントから抜く



指示

接続する音響機器は取扱説明書に従って使用する

電源を切る前に音量を最小にする
音量を絞ってから入力機器を接続する
電源を入れた時に大きな音が出ると、聴覚障害や機器の故障の原因となります。

真空管の取り扱いについて

警告



禁止

真空管の差し替え、破損について
真空管の差し替えまたは破損での修理は絶対にお止めください。販売店もしくは当社にご相談ください。

真空管や真空管カバー、その周辺には手を触れない
真空管は高熱になります、絶対に手を触れないでください。
特にお子様のいるご家庭では細心のご注意をお願いします。

諸注意

本機は真空管を使用している為、機能上強い電波や外来ノイズを受けやすい構造になっています。設置場所には十分注意して下さい。

ご使用の前に

お買い上げいただきありがとうございます。本機をご使用になる前に、この取扱説明書をお読みください。またお読みになったあとは大切に保管してください。

1 付属品

本製品の同梱の付属品をご確認ください。

- オーディオミニプラグケーブル (Φ3.5mm ステレオ) 1 個
 - 取扱説明書 (本書) 1 冊
- ご使用なられる再生機器と本機との接続コードは、別途ご用意ください。

2 設置について

棚の中への設置の場合は、十分な空間をお取り下さい。

ラジオやテレビの音声に雑音が入ったり、画像が乱れたりする場合は、ラジオ、テレビ、チューナー、室内アンテナなどから本機を離して設置してください。

3 お手入れのしかた

水でぬらし固く絞った柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは使用しないでください。

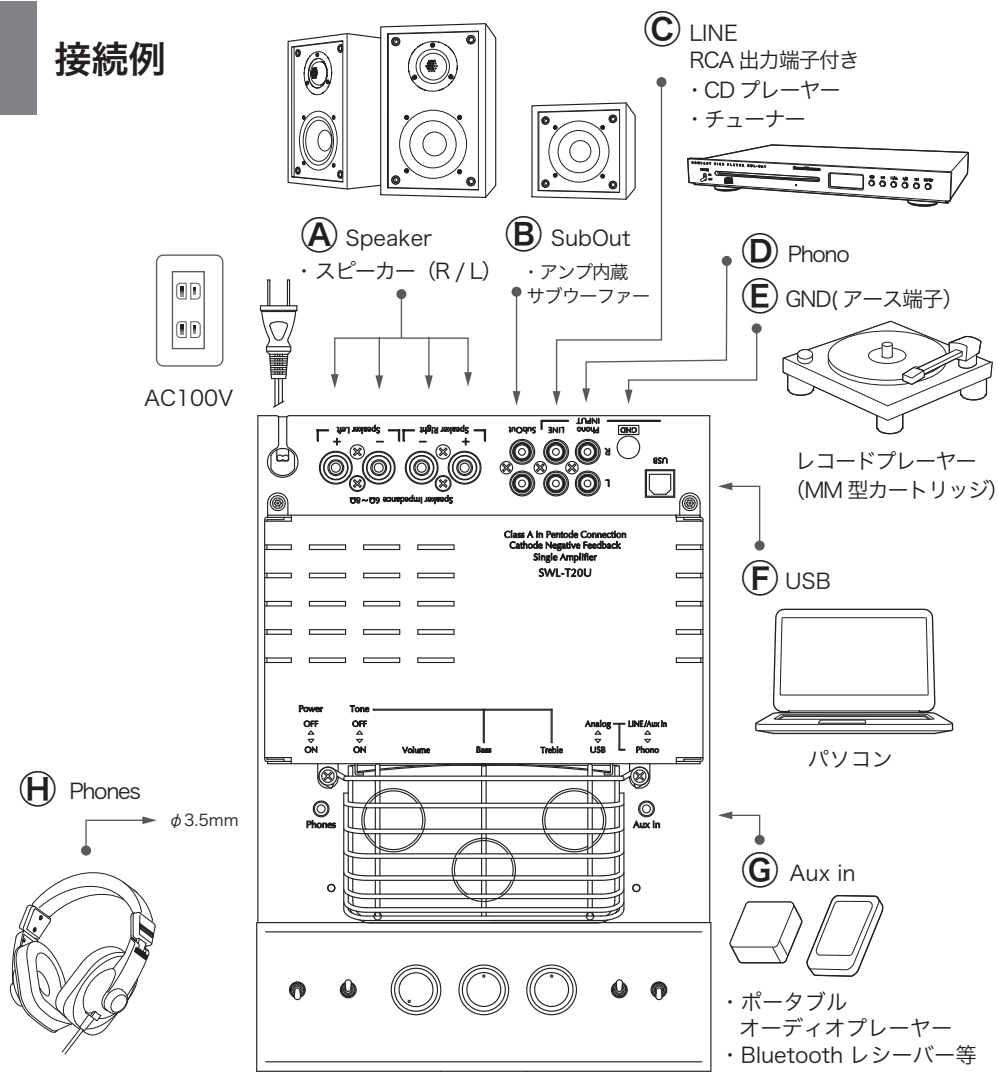
4 真空管について

真空管には寿命があります。交換の際は、販売店へご相談ください。

特長

本機はPHONO入力、LINE入力に加え、USBデジタル入力端子を備えたUSB DAC内蔵真空管プリメインアンプです。双三極管(12AX7等)1本と五極管(6BQ5等)2本の真空管を採用し、五極管接続・カソード負帰還回路・A級シングルアンプの構成となっています。レコードやCDはもちろん、パソコンやスマートフォンとの接続による音楽配信サービス等のデジタル音源も、真空管ならではの暖かく艶っぽい音色でお楽しみいただけます。スピーカー・ヘッドホンどちらにも接続可能で、お好みの音に調整できるトーンコントロールも備えた真空管アンプです。

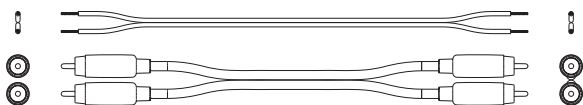
接続例



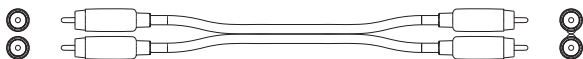
接続ケーブル

ご使用の再生機器に合わせて、必要な接続ケーブルは別途ご用意ください。

(A) スピーカーケーブル



(B)(C)(D) オーディオケーブル(RCA)



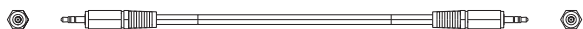
(E) レコードプレーヤーアース線



(F) USBケーブル(Type-B)

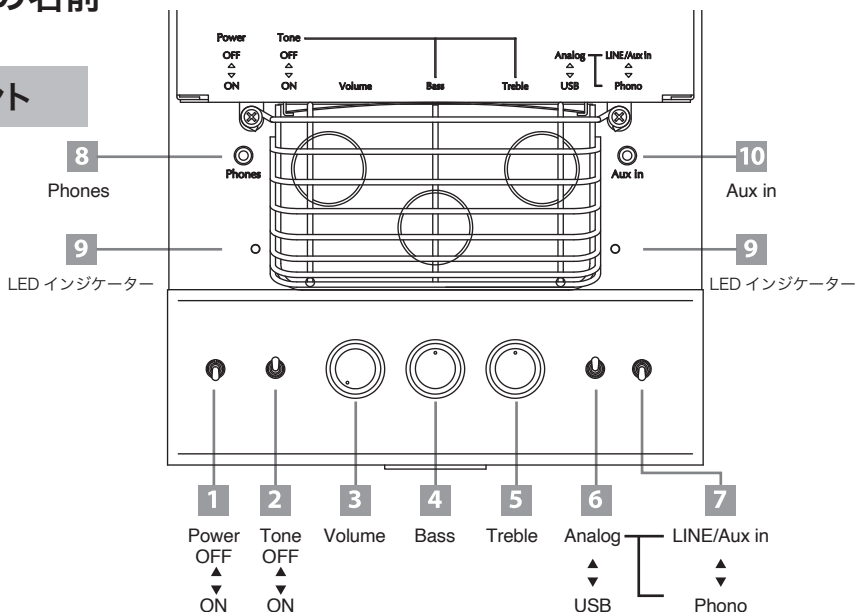


(G) オーディオミニプラグケーブル



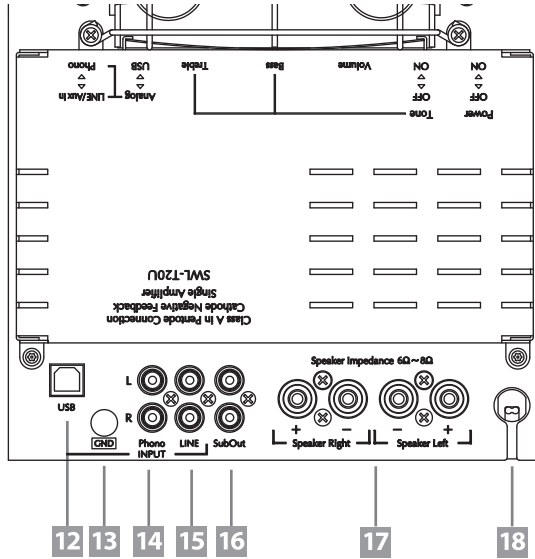
各部の名前

フロント



- 1** 電源スイッチ
電源の入 (ON) / 切 (OFF) をします。
- 2** トーンコントロールスイッチ
音質調節回路をスキップするスイッチ。
オン (ON) / オフ (OFF) で切り替えます。
低音・高音の音量は **4** と **5** の調節つまみで調節します。
- 3** 音量つまみ
音量を調節します。
- 4** 低音調節つまみ
トーンコントロールの低音調節ボリューム。
2 が ON 時に動作します。
- 5** 高音調節つまみ
トーンコントロールの高音調節ボリューム。
2 が ON 時に動作します。
- 6** 入力ソース切替スイッチ 1
デジタル入力またはアナログ入力の切替。
・ USB (デジタル) : USB 端子 **12** 有効
・ Analog (アナログ) : LINE 端子 **15** Aux in 端子 **10** または Phono 端子 **14** が有効
- 7** 入力ソース切替スイッチ 2
アナログ入力 (Analog) の選択時に LINE 端子もしくは Aux in 端子、または Phono 端子の有効を切り替えます。
- 8** ヘッドホン出力端子 (3.5mm ステレオミニ)
ヘッドホンを接続します。Phones 接続 **8** 時は SubOut 接続 **16** と Speaker 接続 **17** は切れます。
- 9** LED インジケーター
電源投入時に点灯します。
- 10** 外部入力端子
3.5mm ステレオミニジャックを接続します。
7 の「LINE1/Aux in」を選択した時の音楽再生機器の音声信号を入力します。
Aux in 接続時は、LINE 接続は切れます。

リア



- 12** USB 端子 (USB)
パソコンを接続します。
・ USB ケーブル接続 (⇒P10)
・ Mac で再生 (⇒P15)
・ Windows で再生 (⇒P17)
- 13** GND 端子 (GND)
レコードプレーヤーのアース線を接続します。
- 14** PHONO 入力端子 (Phono)
MM 型のカートリッジを使用したレコードプレーヤーを接続します。
- 15** ライン入力端子 (LINE)
再生機器の出力端子と接続します。
- 16** サブ出力端子 (SubOut)
アンプ内蔵サブウーファーと接続します。
Phones 接続 **8** が優先されます。
- 17** スピーカー接続端子
・ 右スピーカー Speaker Right
配列は 赤 (+) 黒 (-)
・ 左スピーカー Speaker Left
配列は 黒 (-) 赤 (+)
バナナプラグ にも対応しています。直径が 4mm のバナナプラグをお使いください。
Phones 接続 **8** が優先されます。
- 18** 電源コード
コンセント (100V) に差し込みます。

接続のしかた

スピーカーの接続 (Speaker 端子)

本機の Speaker 端子に接続出来るのは「パッシブスピーカー」です。
スピーカーはインピーダンス $6\Omega\sim 8\Omega$ のものをご使用ください。

接続する前に

- ① 本機の電源を切ってください。
- ② ヘッドホンを接続している場合は、抜いてください。
※ヘッドホンを接続したままではスピーカーから音がなりません。

1、スピーカー (Speaker) 端子への接続

スピーカーケーブルを、アンプのスピーカー端子に接続します。アンプには、スピーカーの右用 (Speaker Right 端子) と左用 (Speaker Left 端子) があります。右用には右スピーカーの端子を、左用には左スピーカーの端子を、極性「プラス (+)・赤」と「マイナス (-)・黒」を合わせて接続してください。

- ※スピーカーケーブルを接続する際には電源が切れていることを必ず確認してください。
- ※スピーカー以外の機器を接続しないでください。故障の原因になる場合があります。
- ※スピーカーケーブルは別途ご用意ください。

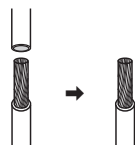
2、使用可能なスピーカーケーブル

「Y プラグ」や「バナナプラグ」を使った接続が行えます。

「Y プラグ」等を使わずに、スピーカーケーブルの芯線をそのまま差し込んで接続することも可能です。

芯線を直接接続する場合

スピーカーケーブルの芯線をそのまま差し込んで接続する場合は、ケーブルの先端の被覆 (絶縁部) を約 10mm はがし、ゆびで芯線をしっかりとよじります。
※長くむきすぎて、芯線先端部分が他と接触しないようにしてください。



端子のつまみを左に回してゆるめます。



芯線差し込み穴径は 2φ です。芯線を露出した金属部中央の穴に差し込みます。



端子のつまみを右に回してしっかり締め付けます。

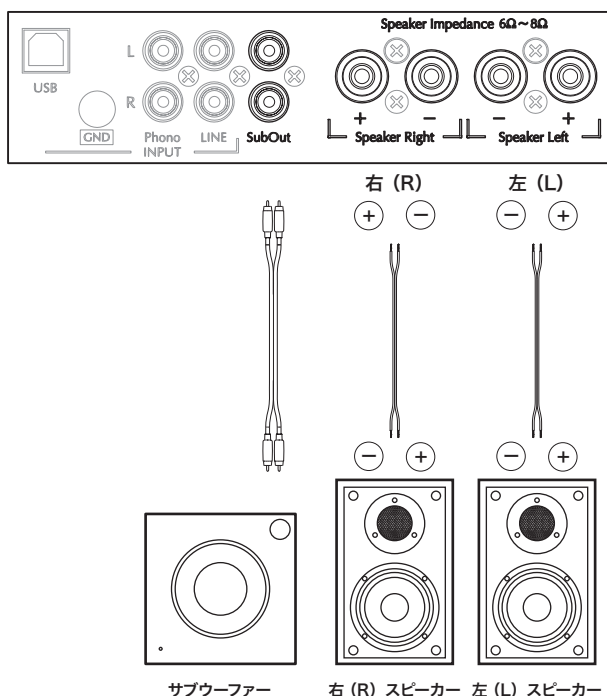


サブウーファーの接続 (SubOut 端子)

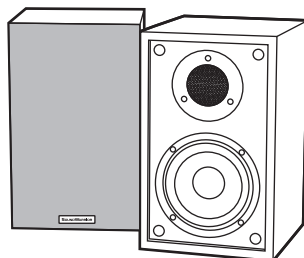
- ・接続機器：アンプ内蔵サブウーファー
- ・接続ケーブル：RCA オーディオケーブル

音量を調節するアンプが内蔵されたサブウーファーは SubOut 端子に接続します。市販の RCA オーディオケーブルを使用し、白いプラグは L 端子へ、赤いプラグは R 端子へ接続します。

スピーカー、サブウーファー接続図

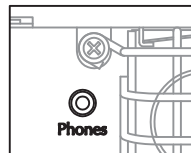
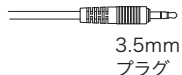


本機と同じシリーズのパッシブラジエーター型スピーカー SW-SP1 (別売り) との組合せをおすすめします。



ヘッドホンの接続

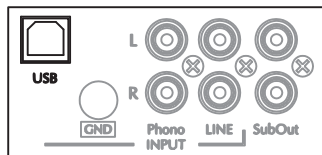
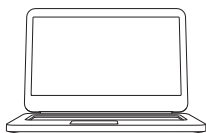
- 1、本機の音量つまみを最小音にする。
- 2、本機のヘッドホン端子 (Phones 端子 $\Phi 3.5\text{mm}$) にヘッドホンを接続します。
なお、ヘッドホンのプラグを差し込むと、「Speaker 端子」からは音が出なくなります。
- 3、ヘッドホンを装着して、本機の音量つまみで適切な音量に調整してください。
注意! ボリュームを上げた状態でヘッドホンを接続することはおやめください。



パソコン、スマートフォン、タブレットの接続 (USB 端子)

- ・接続機器：パソコン、スマートフォン、タブレットなど
- ・接続ケーブル：USB ケーブル (Type-B 用)

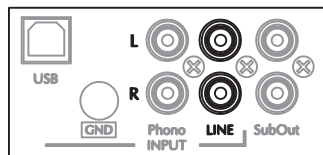
USB 端子とパソコン、スマートフォン、タブレットを USB ケーブルで接続します。接続される機種に適合する USB ケーブル (Type-B) を別途ご用意ください。長さ 2m 以下のケーブルをお使いください。本機の USB 端子は「USB type-B」です。「Micro USB Type-B (USB Micro B)」ではありません。



オーディオ機器の接続 (LINE 端子)

- ・接続機器：CD プレーヤーやチューナーなど
- ・接続ケーブル：RCA オーディオケーブル

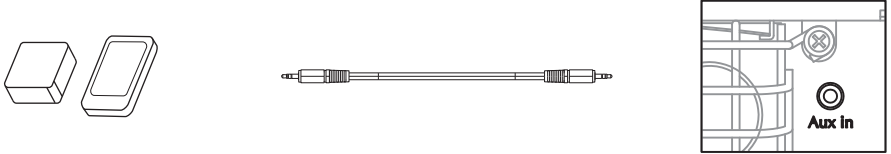
LINE 端子に RCA 出力端子付きのオーディオ機器を接続します。市販の RCA オーディオケーブルを使用し、白いプラグは L 端子へ、赤いプラグは R 端子へ接続します。



オーディオ機器の接続 (Aux in 端子)

- ・接続機器：ポータブルオーディオプレーヤー、Bluetooth レシーバーなど
- ・接続ケーブル：オーディオミニプラグケーブル

Aux in 端子には市販のオーディオミニプラグケーブルを使い、ポータブルオーディオプレーヤーや Bluetooth レシーバーなどを接続します。

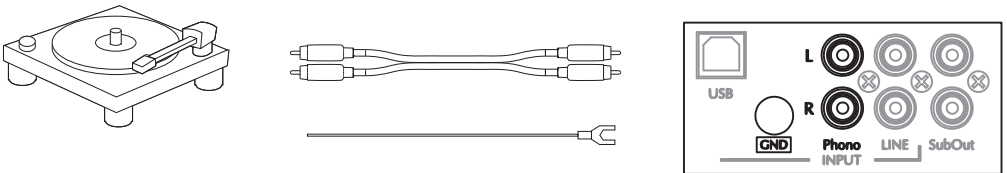


Aux in 端子に接続しているときは、LINE 端子からの音声入力は再生できません。

レコードプレーヤーの接続 (Phono 端子)

- ・接続機器：レコードプレーヤー
- ・接続ケーブル：RCA オーディオケーブルを Phono 端子に接続。
- ・レコードプレーヤーのアース線：GND 端子に接続

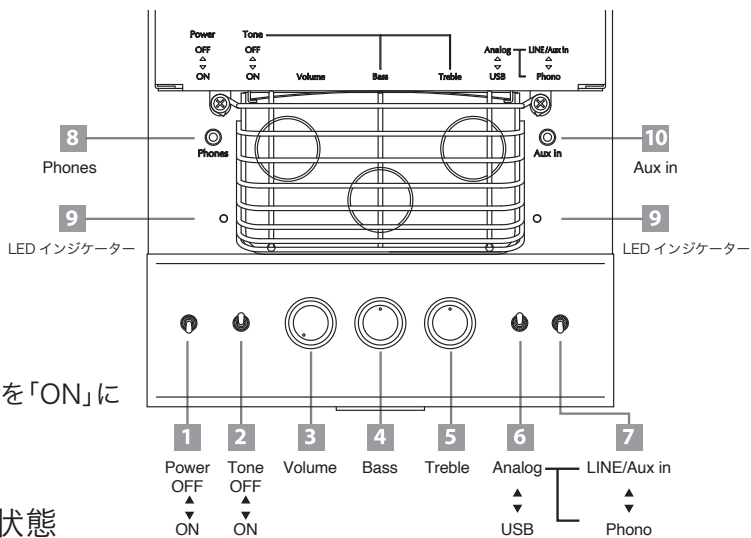
MM 型カートリッジを使用したレコードプレーヤー - の Phono 端子と、本機の Phono 端子を、RCA オーディオケーブルで接続します。レコードプレーヤーのアース線を GND 端子に接続をします。



電源コードの接続

電源コードを家庭用電源コンセント (100V) に差し込みます。

基本操作



1 電源を入れる

電源スイッチ **1** を「ON」に合わせます。

2 真空管の待機状態

電源を入れると真空管両側のLEDインジケータ **9** が点灯します。電源をONにしてもすぐには音が出ません。真空管が暖まるまでの少しの間、お待ちください。

3 再生するソースを選ぶ

入力ソース切換スイッチ **6** でアナログ(Analog)入力またはデジタル(USB)入力を選びます。

1)アナログ(Analog)選択:接続した機器に合わせて入力ソース切換スイッチ **2** で選択します。

- ・LINE/Aux in:LINE端子に接続したRCA出力端子付きの音楽再生機器 **7** またはAUX端子に接続した音楽再生機器の再生。
- ・Phono: Phono端子に接続したレコードプレーヤーの再生。

2)デジタル(USB)選択:パソコンでの音楽再生。

4 音量を調節する

音量つまみ **3** を左に回し最小音の位置にします。音楽再生機器の電源をオンにし、再生状態にしてから音量つまみを右に回し好みの音量にします。

5 電源を切る

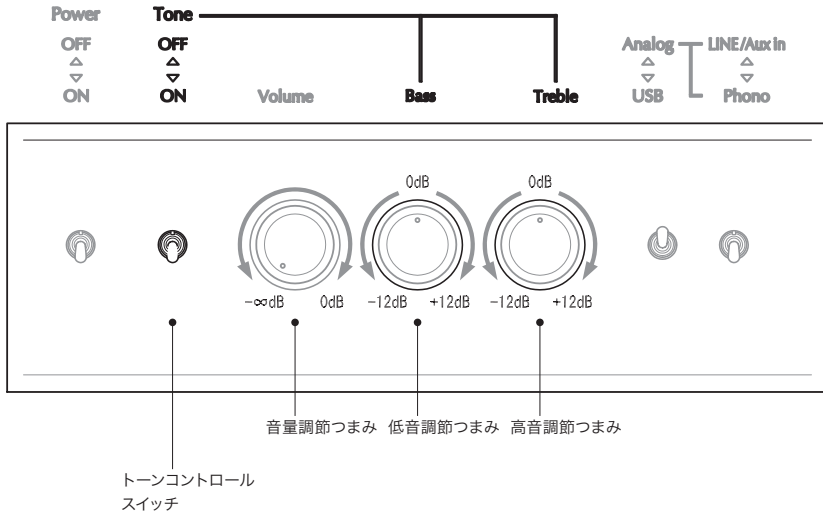
電源スイッチ **1** を「OFF」に合わせます。

トーンコントロールの操作

トーンコントロールスイッチを OFF 側にするると、トーンコントロール回路をバイパスできるため音源（ソース）そのままの音を聞くことができます。

トーンコントロールスイッチを ON 側にするると、低音・高音の音量操作ができるようになります。中央位置ではフラットな周波数特性となるように設定されています。

- ・ 低音域の音量は、低音調節つまみ (Bass) を調節し、右に回すと低音域が増強し、左に回すと減衰します。
- ・ 高音域の音量は、高音調節つまみで (Treble) を調節し、右に回すと高音域が増強し、左に回すと減衰します。

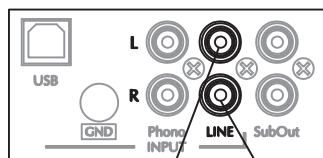


再生のしかた

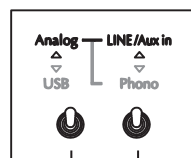
オーディオ機器で再生 (LINE 端子)

RCA 出力端子のある CD プレーヤーやチューナーなど。

- 1、本機とオーディオ機器との接続を確認する。
RCA オーディオケーブルを LINE 端子に接続。
(白プラグは白の L 端子へ、赤プラグは赤の R 端子へ)
- 2、音量つまみを最小音にする。
- 3、入力ソース切換スイッチ 1 を「Analog」に合わせる。
- 4、入力ソース切換スイッチ 2 を「LINE/Aux in」に合わせる。
- 5、オーディオ機器の電源をオンにし再生する。
- 6、音量つまみを右に回していき、お好みの音量にする。



L 端子 R 端子



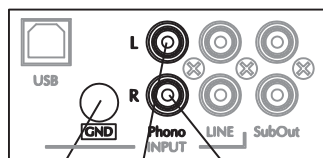
スイッチ 1 スイッチ 2

LINE 端子と Aux in 端子の両方にケーブルを接続している場合、Aux in 端子からの音声入力が優先され、LINE 端子からの音声入力は再生できません。

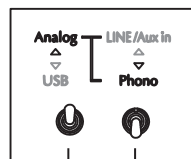
レコードプレーヤーで再生 (Phono 端子)

レコードプレーヤー (MM 型カートリッジ)。

- 1、本機とレコードプレーヤーとの接続を確認する。
RCA オーディオケーブルを Phono 端子に接続。
レコードプレーヤーのアースを GND 端子に接続。
- 2、音量つまみを最小音にする。
- 3、入力ソース切換スイッチ 1 を「Analog」に合わせる。
- 4、入力ソース切換スイッチ 2 を「Phono」に合わせる。
- 5、レコードプレーヤーの電源をオンにし再生する。
- 6、音量つまみを右に回していき、お好みの音量にする。



アース端子 L 端子 R 端子



スイッチ 1 スイッチ 2

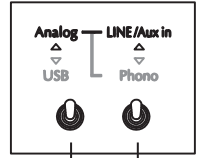
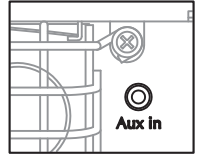
レコードプレーヤーについて

- ・MM 型カートリッジ：レコードプレーヤーのカートリッジ形式には MM 型と MC 型があります。本機は MM 型カートリッジに対応しています。
- ・Phono 端子：本機はフォノイコライザー内蔵です。レコードプレーヤーの Phono 端子と本機の Phono 端子とをケーブルで接続してください。

ポータブルオーディオプレーヤーで再生 (Aux in 端子)

ポータブルオーディオプレーヤーなど。

- 1、本機とオーディオ機器との接続を確認する。
市販のオーディオミニプラグケーブルで Aux in 端子に接続。
- 2、音量つまみを最小音にする。
- 3、入力ソース切換スイッチ 1 を「Analog」に合わせる。
- 4、入力ソース切換スイッチ 2 を「LINE/Aux in」に合わせる。
- 5、オーディオ機器の電源をオンにし再生する。
- 5、音量つまみを右に回していき、お好みの音量にする。



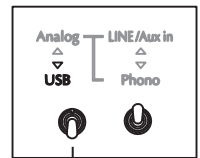
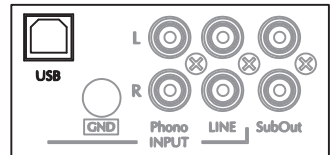
スイッチ 1 スwitch 2

Mac で再生 (USB 端子)

※本機はハイレゾ非対応 (PCM48k まで) です。

1 Mac との接続を確認する

- 1、本機と Mac との接続を確認する。
USB ケーブル (Type-B) で) USB 端子に接続。
- 2、音量つまみを最小音にする。
- 3、入力ソース切換スイッチ 1 を「USB」に合わせる。
- 4、Mac の電源をオンにする。



スイッチ 1

2 サウンドデバイスを設定をする

- ① Mac の [システム環境設] を開き、
[サウンド] を開く。



- ② [出力] の「USB Audio CODEC」を
選ぶ。



3 サンプリング周波数を設定する

「ミュージック」アプリや Web ブラウザの音声を聴く場合、サンプリング周波数は Mac の設定に依存するので、Mac 側で設定をします。

※ JRiver Media Center、Audivana など一部の再生ソフトは、Mac のサンプリング周波数設定の影響を受けないため、以下の設定は不要です。

- ① 画面下部の Dock から [launchpad] を開く。



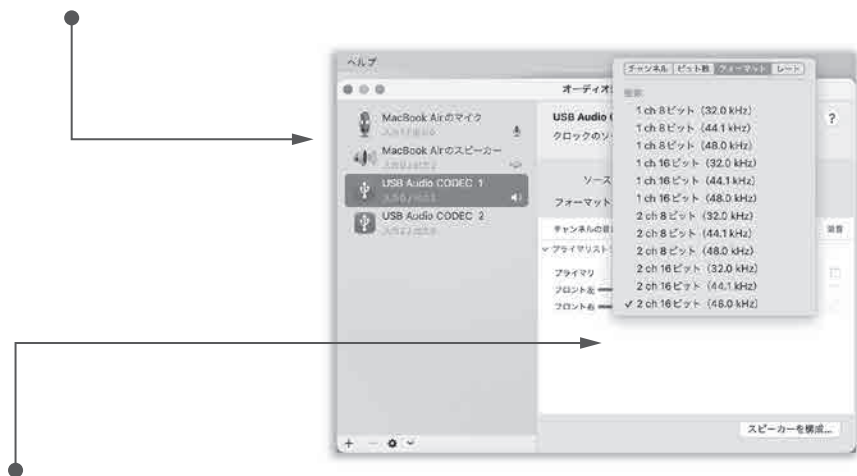
- ② その他を開く。



- ③ [Audio MIDI設定] を開く。



- ④ 「USB Audio CODEC」を選ぶ。



- ⑤ [フォーマット] で量子化ビット数とサンプリング周波数を、再生する音源の数値に合わせて選ぶ。

4 再生する

お好みの再生ソフトで音声を再生してください。

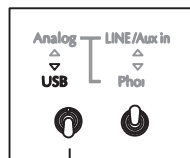
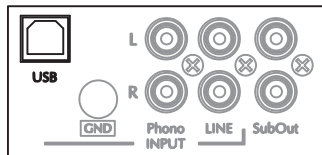
再生時に大音量にならないよう、本機の音量をしばってください。

Windows で再生 (USB 端子)

※本機はハイレゾ非対応 (PCM48k まで) です。

1 Windows パソコンとの接続を確認する

- 1、本機と Windows パソコンとの接続を確認する。
USB ケーブル (Type-B) で USB 端子に接続。
- 2、音量つまみを最小音にする。
- 3、入力ソース切換スイッチ 1 を「USB」に合わせる。
- 4、Windows パソコンの電源をオンにする。



スイッチ 1

2 スピーカーの設定

タスクバーのスピーカーアイコンをクリックし、「スピーカー (USB Audio CODEC)」を選択します。



3 本機との接続を確認する

パソコンから本機が正しく認識されているかを確認します。

- ① パソコン画面のスタートボタンを右クリックし「デバイスマネージャー (M)」を選びます。
- ② 「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラー」を展開し、本機を確認します。

「USB Audio CODEC」が表示されていたら、本機が正しく認識されています。



4 再生する

再生時に大音量にならないよう、本機の音量をしばってください。

お困りの時は

■ 電源スイッチを操作しても電源が入らない

| 原因として主に考えられること | 対処方法 |
|------------------------|--------------|
| 本体内のヒューズが切れている場合があります。 | 販売店にご相談ください。 |
| 真空管が壊れている場合があります。 | 販売店にご相談ください。 |

■ 音が出ない

| 原因として主に考えられること | 対処方法 |
|---|---|
| 接続ケーブルが外れているか、接続が不完全、または間違えた接続をしている場合があります。 | ケーブルがきちんと差し込まれているかご確認ください。 ケーブルが断線していないかご確認ください。 |
| 入力セレクタースイッチの位置が、合っていない場合があります。 | スイッチ位置を確認して、正しい位置にしてください。 |
| 出力側の機器に問題がある。 | 出力側の機器の状態をご確認下さい。 |

■ パソコンで正しく認識されない

| 原因として主に考えられること | 対処方法 |
|----------------|---|
| 接続に失敗している。 | 本機の電源を切り、パソコンを再起動してから再度接続してください。 |
| ケーブルに異常がある。 | ケーブルがきちんと差し込まれているかご確認ください。 ケーブルが断線していないかご確認ください。 |

■ レコード再生時にスピーカーから雑音が出る

| 原因として主に考えられること | 対処方法 |
|---|--|
| アース線の接続が不完全な場合があります。 | 本機及びレコードプレーヤー側のアース線接続を確実にしてください（アース線を接続することによって雑音が出る場合は、接続をやめてください）。 |
| レコードプレーヤーの近くにテレビや AV 機器などがあると、再生音に影響が出る場合があります。 | レコードプレーヤーをテレビや AV 機器などから離して設置してください。 |

商標
について

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
Mac、macOSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc. の商標です。

型番：SWL-T20U

保証期間：ご購入日より1年

保証規定

For Japan Only

- 1、本製品の保証期間は、新品で購入された製品であり、ご購入日から1年間です。
- 2、本製品を保証期間内に取扱説明書等の注意書きにしたがった正常な使用状態で故障した場合に限り、無償で修理もしくは当社の判断による製品交換の範囲に限らせていただきます。
- 3、次あげる場合には、保証期間内でも本保証の対象外となります。
 - 1) 取扱上の不注意、誤用による故障および損傷の場合。
 - 2) お客様による輸送・移動時の落下、衝撃などによる故障、破損の場合。
 - 3) 当社および当社が指定する機関以外の第三者ならびにお客様による改造、分解、修理により故障した場合。
 - 4) 火災・地震・水害等の天災地変および異常電圧による故障・損傷の場合。
 - 5) 通常想定される使用環境の範囲を超える温度、湿度、振動等により故障した場合。
 - 6) 本製品と接続した他の機器に起因して本製品に生じた故障の場合。
 - 7) 譲渡や中古販売、オークション、転売などでご購入された場合。
 - 8) 識別ラベル、シリアル番号、または安全ラベルが除去または変更された場合。
 - 9) 製品購入日（保証開始日）と販売店が分かる書類（レシート・納品書等）のご提示がない場合。
- 4、本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害については当社はその責を負わないものとします。
- 5、消耗・摩耗した部品、その他の付属品及び本製品に接続したソフトウェアやデータなどは保証いたしかねます。
- 6、修理ご依頼品を郵送、またはご持参される場合の諸費用は、お客様のご負担となります。
- 7、本保証は日本国内においてのみ（本製品が日本国内で購入され、日本国内で使用された場合においてのみ）有効です。

This Warranty only applies to Products purchased and used in Japan.

- お買い上げ製品のシリアル番号をお確かめの為、下記の欄にご記入ください。

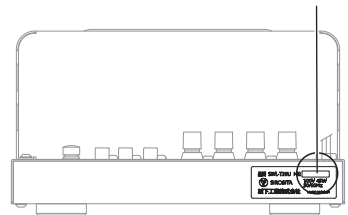
シリアル番号

ホームページのサポートページにはよくある質問（FAQ）などが掲載されています。<https://soundwarrior.jp/support/>



サポート

シリアル番号ラベル：本体背面の右側



アフターサービス

製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。お困りの場合は公式サイトからメールをお送りいただくか、またはお電話でお問い合わせください。

■メールでのお問い合わせ <https://soundwarrior.jp/contact/>

■お問い合わせ窓口(城下工業) TEL: 03-6801-5355 平日10時~17時 (土日祝祭日を除く)

- 1、保証期間中の修理をご希望の際は、製品購入日がわかる書類(レシートや領収書)をご提示の上、下記の事項を添えてお買い上げの販売店にご依頼ください。● 型番「SWL-T20U」、シリアル番号(上記イラストを参照)、氏名、電話番号、住所、メールアドレス、故障状況とご使用の環境
- 2、保証期間が過ぎた時は修理が可能な場合は、有償にて承ります。お買い上げの販売店へご相談ください。



お問い合わせ

主な仕様

■ 一般

| | |
|-----------|---|
| 構成 | ブリ段：真空管 双三極管 (12AX7・他) …1 本 パワー段：真空管 五極管 (6BQ5・他) …2 本 |
| 電源電圧 | AC100V 50/60Hz |
| 消費電力 | 45W |
| 外形寸法 | 200mm (W) × 112mm (H) × 290mm (D) (突起物含まず) |
| 本体質量 | 約 3.7kg |
| 動作温度環境 | 5 °C ~ 40 °C |
| トーンコントロール | シェルピング特性 Bass (cut off 100Hz) ±12dB 可変 Treble (cut off 3Hz) ±12dB 可変 |
| 付属品 | オーディオミニプラグケーブル (Φ3.5mm ステレオ) x 1、取扱説明書 x 1 |

■ デジタル入力

| | |
|-----------------|--------------------|
| USB 端子 | TYPE B |
| ・ 信号規格 | USB 1.1 |
| ・ PCM サンプリング周波数 | 32 / 44.1 / 48 kHz |
| ・ PCM 量子化ビット数 | 16 bit |

■ アナログ入力

| | |
|--------|--|
| アナログ端子 | Phone 入力：RCA ピンジャック L/R LINE 入力：RCA ピンジャック L/R Aux in 入力：3.5mm ステレオミニジャック (LINE に対し Aux in 優先) |
| ・ 入力感度 | Phono(MM:RIAA 特性)：5mW LINE：410mV Aux in：270mV |

■ スピーカー出力 / ヘッドホン出力

| | |
|------------------|--|
| Speaker 端子 | スピーカーターミナル L/R (Φ4mm バナプラグ対応) |
| ・ 最大出力 | 3W x 2 (1kHz 歪率 10%) |
| ・ 適合スピーカーインピーダンス | 6 Ω ~ 8 Ω |
| ・ スピーカー出力周波数特性 | 20 Hz ~ 20 kHz (0dB、-2dB) |
| Sub Out 端子 | RCA ピンジャック L/R |
| Phones 端子 | Φ3.5mm ステレオミニジャック (Speaker Left, Speaker Right, Sub Out に対し優先接続) |
| ・ ヘッドホン適合インピーダンス | 40Ω ~ 100Ω |

※仕様は予告なく変更する事があります

SOUNDWARRIOR
<https://soundwarrior.jp/>



製造元

SHIROSHITA 城下工業株式会社
SHIROSHITA INDUSTRIAL CO., LTD.

〒386-0015 長野県上田市常入 1-1-58

Printed In Japan
18QA0390AN